

探究型学習で「リベラルアーツ」実践

思考力や表現力向上

山形県立酒田東高校

山形県立酒田東高校(大山慎一校長、生徒550人)は「リベラルアーツ」という名称で、3年間を通して課題研究などを行う「探究型学習」に取り組んでいる。この授業では1、2年生で情報収集など、課題研究の基礎を身に付け、3年生で英語による研究発表を実施。授業を円滑に運営するためにオリジナルの「酒田課題研究ノート」の活用や外部連携にも力を入れている。取り組みを通して、生徒たちの思考力などが向上している。

「国際」「理数」で専門的に学ぶ

同校は開校100年目を、地域住民の間に生じてきた迎えた伝統校で、進学校と「(大山校長)という。して知られている。しかし、こうした中、学校の特徴を近隣地区で中高一貫校が開出するために外部人材と連携校する見直しとなったことするなどの探究型学習に力を受け、「酒田東は遅れをを入れることを決めた。取るのはないか」といっ同校はまず、普通科の他た危機感や不安が教職員やに探究科を新設。探究科は、世界史や英語などの文系科目を中心に学ぶ「国際探究科」、理数科目を中心に学ぶ「理数探究科」の2コースを設置した。



大学教員などの前で、3年生が研究成果を英語で発表している様子

独自のノートを活用／外部との連携重視

理数系教育を重視し、論理的思考力を高める授業などにも取り組んできた。3人一組で協働的に活動

西学科に共通する授業として、3年間を通して学ぶ「リベラルアーツ」がある。この授業は総合的な探究の時間の位置付けで、生徒は3人のメンバーからなるグループで課題研究を行う。



グループをつくり、協働的に活動する2年生の課題研究の様子

の方法、英語による研究発表などを段階的に指導する。学習の柱は1、2年生で学ぶ統計処理や外部人材の講演などによるインプット、3年生で行う英語での研究発表会などのアウトプットとした。

インプットは1、2年生の授業の核として、外部人材へのインタビューをはじめとした情報収集などを取り入れた。学校図書館やインターネットだけでなく、大学や研究機関、民間企業の担当者を訪問したり、オンラインでつなげたりするという。

3年生が英語で研究発表、質疑応答もアウトプットについて、3年生が英語で研究を発表する「Presentation in English」を核とした。発表の当日は、近隣大学の教員や外国人留学生などを招き、英語で質問やコメントをもらう。一方通行の発表ではなく、臨機応変に英語で対応する力を身に付けてもらいたいという思いから、質疑応答のやりとりは「アドリブ」だ。他にも英語でディスカッションしたり、論文のアブストラクトを作成したりする。

同校は研究の進捗を記録する「酒田課題研究ノート」を生徒に配布。探究型学習のテキストの役割もあつて、6人の担当教員が、外部機関との交渉や学年間の連絡調整などを担う。授業

生徒の研究テーマはさまざま。3年生のあるグループは松の葉の色素を使った発電方法について発表。松の葉から抽出した「クロロフィル」という成分で太陽電池を作り、その電池で効率的な発電ができるのではないかと仮説を設定した。起電力を検証した実験データなどを示しながら、英語で発表した。

また生徒の学習を充実・サポートするために、外部連携を重視する。山形大学や東北公益文科大学など、近隣の大学と連携協定を結び、研究について指導を受け、また地域の民間企業と商品開発をしたり、市内の小・中学校で探究学習の支援に取り組みたりしている。

円滑な実施へ 校務分掌設ける

大山校長は「これまで積み上げてきたノウハウなどを無駄にすることなく、持続可能な運営で探究型学習を充実させたい」と語った。酒田東高校 0234・22・0456